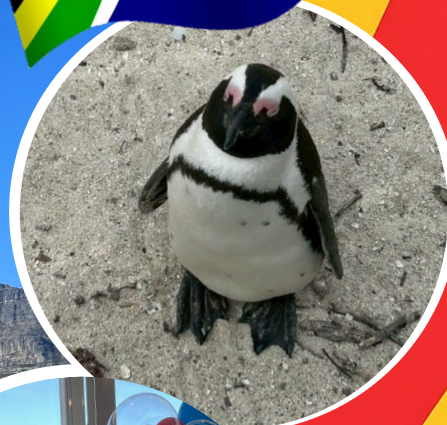


国際大会発表奨励事業 (第30回国際小児歯科学会) 報告書



#IAPD2025

目次

公益社団法人日本小児歯科学会理事長	新谷 誠康	P2
公益社団法人日本小児歯科学会国際渉外委員長	仲野 和彦	P2
大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座	奥田 真琴	P3
大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座	落合 まりん	P3
東京歯科大学小児歯科学講座	窪山 裕也	P4
昭和医科大学小児成育歯科学講座	柴原 果依	P4
大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座	高木 美里	P5
広島大学大学院医系科学研究科小児歯科学	田畑 映見	P5
大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座	夏江 華瑠奈	P6
朝日大学歯学部口腔構造機能発育講座小児歯科学分野	坂東 亮	P6
朝日大学医科歯科医療センター歯科衛生部	福井 朝望	P7



第30回国際小児歯科学会（KAPD）大会における国際大会発表奨励事業

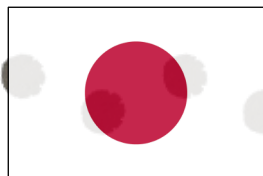
公益社団法人日本小児歯科学会理事長
新谷 誠康



本事業は第30回IAPD大会（2025年10月22～25日、南アフリカ・ケープタウン）において、筆頭発表者として発表を行う大学院生もしくは臨床研修開始後5年目までの歯科医師会員および歯科衛生士免許取得後8年目までの会員に対して大会参加に対する諸費用を支援し、国際的な場での積極的な活動を奨励するために行われました。本事業は日本小児歯科学会国際渉外委員会経費とASUNARO基金（故佐野正之理事にご寄付いただき創設）をもとに運営されています。故佐野理事に心より感謝を申し上げます。

本報告書には、支援を受けて発表を行った若い小児歯科医のエネルギー溢るような報告が記載されています。彼らが興味を抱き、じっくり探求した症例報告、臨床研究あるいは基礎研究の高度な発表の概要がそれぞれの「発表内容の説明」に記載され、その内容は国際的に評価されるに値するものであり、彼らの発表への熱い情熱が感じ取れます。「大会参加に関する感想」に記録された内容からは、学会場では発表、学会行事および国際交流に真剣に取り組まれるとともに、学会場外では、今回の開催地は通常では訪れる機会が少ないであろう、アフリカ大陸の南端ケープタウンであったことも相俟って、楽しいひと時を過ごされたことがわかります。いずれも、彼らの眼が広く海外を自分の活動の場であると捉えており、今後の国際的な活躍が予感されるものであることを大変嬉しく思います。

第31回IAPD大会が本事業を企画運営いただいている仲野和彦国際渉外委員長を大会長とし、2027年に大阪の地で開催されます。IAPD大会を成功させるためには、これからも日本の若い小児歯科医が国際舞台において大いに活躍され、1年半後にさらなる高みに立たれることが不可欠です。彼らの未来がキラキラ煌めくものであることを期待して、本事業は今後も継続して行って参りたいと考えております。



国際舞台で輝く日本の小児歯科を目指して

公益社団法人日本小児歯科学会国際渉外委員長
仲野 和彦



国際大会発表奨励事業は3年目を迎え、日本人若手会員のプレゼンテーションが確実に洗練されてきていることを、強く実感しています。特に、自分が伝えたい内容を「英語でしっかり伝えたい」という姿勢がより明確になり、国際的な場で発表する自信が、多くの若手の先生方に芽生えてきているように思います。語学力の向上はもちろんですが、それ以上に、世界に向けて自ら声を届けようとする前向きな意欲が広がってきたことを、大変うれしく感じています。

ケープタウンでの第30回 IAPD 大会が終了し、日本で36年ぶりに IAPD 大会を迎える日が、いよいよ1年半後に迫ってきました。私たちは開催国としての役割を果たすだけでなく、日本の小児歯科の技術や知見の高さを世界へしっかり発信し、日本の存在感をより強く示したいと考えています。これまでの取り組みを通じて、多くの先生方が英語で発信する力を着実に伸ばしてられました。今後は、当日に向けて内容そのものの質をさらに高めていただくことを期待しています。

ここ数年、日本は内向きになっているという指摘をしばしば耳にします。しかし、世界の多様な価値観を理解して互いに学び合う姿勢は、私たちの専門分野にとっても非常に大切です。IAPD 大会は、まさに世界中の小児歯科医が集い、多様な考え方や臨床の知恵に触れられる貴重な場です。次回大会では、世界の専門家が日本に集まります。この機会に、多くの国の先生方と新たなつながりを築き、人脈を広げていただければと思います。

「次世代に私たちは何を残せるのか」と考えたとき、私は、国境を越えたネットワークの構築こそが、最も有意義な財産ではないかと考えています。次回大会は、そのネットワークをさらに発展させる大きなチャンスです。残る1年半は、その準備を積み重ねる大切な期間となります。日本の小児歯科が国際舞台で輝きを増し、未来へ向けた力強い一歩となることを心より願っております。

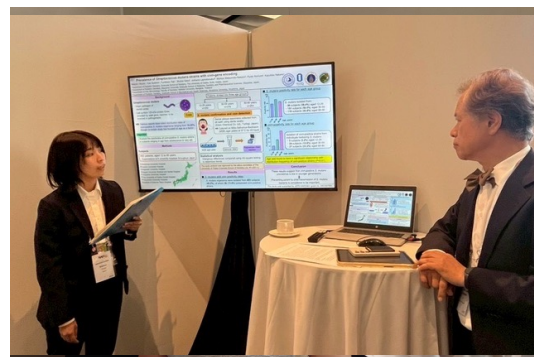
アフリカ大陸の雄大な自然を感じて



大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座
奥田 真琴

発表内容の説明

Streptococcus mutans はう蝕の主要な病原性細菌であるだけでなく、菌体表層に *cnm* によりコードされるコラーゲン結合タンパク (Cnm) を発現する菌株は、全身疾患に関与することが報告されています。これまでに、*cnm* 陽性 *S. mutans* 株の分布に関する報告はありましたが、日本における分布に関する調査は行われていませんでした。そこで、本研究では *cnm* 陽性 *S. mutans* 株の分布を分析したところ、高齢であるほど検出率が高いことが明らかとなり、年齢と *cnm* 陽性 *S. mutans* 株の検出率に有意な相関を認めました。



ポスター発表の様子

大会参加に関する感想

この度はIAPD2025大会に参加する機会をいただきありがとうございました。英語でのコミュニケーションには不安がありましたが、各国の先生方と研究に関する意見を交換し、多くの知見を得ることができました。また、今大会の開催地であるケープタウンは山と海に囲まれた自然豊かな素晴らしい場所であり、日本では目にすることのないような動物に出会うことができ、非常に貴重な経験となりました。今後も海外の学会にて自身の研究成果を発表する機会が得られるよう、日々研鑽に努めていきたいです。



ケープタウンの野生動物たち

南アフリカでのIAPD2025大会に参加して

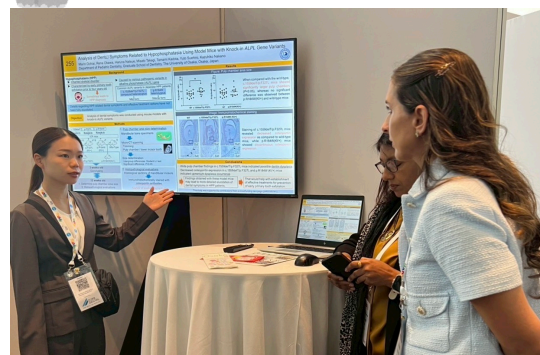


大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座
落合 まりん

発表内容の説明

低ホスファターゼ症 (HPP) は、乳歯早期脱落を主症状の1つとする遺伝性骨疾患です。今回、日本人HPP患者に多く認められるバリエーションを有するモデルマウスを作製し、それぞれの歯科症状について解析しました。

その結果、軽症型HPPに関連するc.1559delT/p.F327Lコンパウンドヘテロ型を有するマウスでは、象牙質形成不全が生じている可能性が示されました。また、c.1559delT/p.F327Lマウスおよびp.R184Wヘテロ型 (歯限局型に関連) マウスの両方において、セメント質形成不全が生じている可能性が示されました。



ポスター発表の様子

大会参加に関する感想

2年前のマーストリヒトでの開催に続き、IAPD大会に参加させていただいたのは2回目となります。同じ学会であっても、会場の雰囲気や交流できた先生方の国籍、体験できた文化が前回のものとは全く異なり、どれも新鮮でした。特に、学会場ではアフリカの音楽やフェイスペイントを体験でき、楽しい思い出となりました。

このような貴重な機会をいただき、感謝申し上げます。今後もこうした学会や国際交流の機会に参加できるよう、臨床や研究に励み、精進していきたいです。



会場にて経験したフェイスペイント

ケープタウンでの初めての海外学会発表

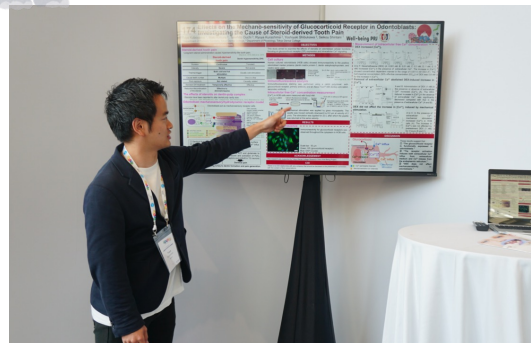
東京歯科大学小児歯科学講座
窪山 裕也

発表内容の説明

ステロイドを長期間使うことで、知覚過敏のような歯の痛み（ステロイド由来歯痛）が起こることが報告されています。しかし、その詳しい仕組みや治療法はまだわかっておらず、つらい症状に悩む患者さんもあります。私が研究を行っている東京歯科大学生理学講座では、歯の内部にある「象牙芽細胞」という細胞の中の Ca^{2+} が、歯の痛みや象牙質が作られる仕組みに関わっていることを明らかにしました。私は主に Ca^{2+} イメージングという方法を使って、ステロイド由来歯痛の原因解明に取り組んでいます。今回の発表では、象牙芽細胞の膜をガラスピペットで機械的に刺激したときの Ca^{2+} の反応は、ステロイドを使っても変化しないことを報告しました。

大会参加に関する感想

初めての海外学会発表で緊張や不安もありましたが、さまざまな国の先生方と臨床や研究について議論する貴重な機会を得ることができました。また、日本とは全く異なる南アフリカの文化・歴史・風景に直接触れ、大変印象深い経験となりました。特に喜望峰からの景色は、脳裏に焼き付くほど素晴らしいものでした。さらに、日本小児歯科学会のご支援のおかげで、無事に発表を終えることができました。この経験を生かして、今後の日々の小児歯科臨床や研究をさらに取り組んでいきたいと思えます。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。



ポスター発表の様子



アフリカ大陸最南端・喜望峰にて

ケープタウンでの学会発表に参加して

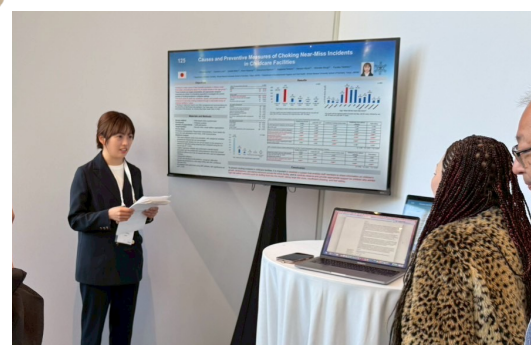
発表内容の説明

近年、日本では保育施設における窒息事故が相次いで報告されており、提供される食事の内容や園児の年齢・発達状態、さらには事故を未然に防ぐための対応について、現場の実態を把握することが求められています。そこで本研究では、保育施設における窒息リスクの原因を明らかにし、予防策を検討するため、アンケート調査を実施しました。その結果、問題のある食行動（詰込みなど）が、窒息のリスクを有意に高めること、子どもの発育・発達、および保育者の不安感と強く関連していることが示されました。

大会参加に関する感想

今回、IAPD学会で二度目の海外での発表を経験いたしました。英語での発表や質疑応答に不安もありましたが、多くの先生方が熱心に耳を傾けてくださり、研究について具体的なコメントや励ましの言葉をいただけたことは貴重な経験となりました。また、各国の先生方の発表を通して、自分にはなかった視点や研究手法に触れることができ、小児歯科医療の広がりや今後の課題を改めて実感しました。今回得られた学びを今後の研究と臨床にいかしていきたいと考えております。

昭和医科大学小児成育歯科学講座
柴原果依



発表の様子



集合写真



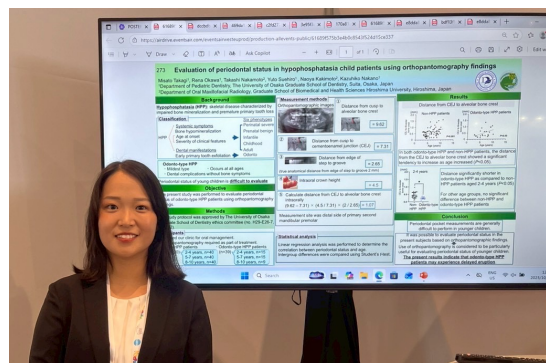
発表内容の説明

低ホスファターゼ症（HPP）は、骨の石灰化障害と乳歯の早期脱落を主症状とする骨系統疾患の1つです。HPP 患者にとって歯周状態を評価することは重要ですが、低年齢児の歯周ポケットを計測することは困難です。そこで、本研究では、パノラマエックス線画像を用いて歯周状態の評価を行いました。その結果、2～4歳の歯限局型 HPP 患者は、同年代の健常者と比較して下顎左側第二乳臼歯において、セメントエナメル境から歯槽骨長までの距離は短く、萌出が遅延する可能性が示されました。

大会参加に関する感想

この度は、IAPD2025大会に参加する機会をいただきありがとうございました。アフリカ大陸への上陸は初めてで、治安や食事の面など不安なことはたくさんありました。しかし、実際にケープタウンを訪れると、自然豊かな港町であり、今回の学会に参加することができてよかったと改めて実感することができました。

学会会場では多くの小児歯科の先生方が、研究や症例に関して議論を行っており、その中でポスター発表を行うことができ、貴重な経験となりました。これからも研究に力を注ぎたいと強く感じました。



e-poster の前で



アフリカ大陸最南西端・喜望峰

IAPD2025に参加しました！

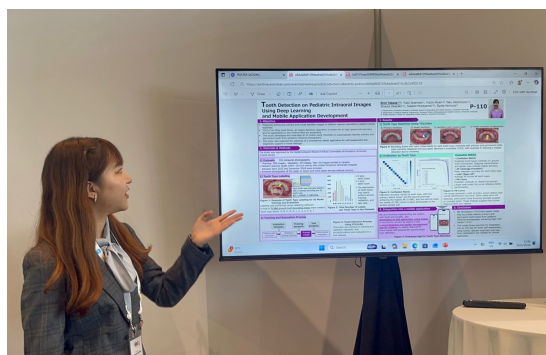
発表内容の説明

本研究では、AIを用いて小児の口腔内写真から歯の種類を自動識別するアルゴリズムを作成しました。約300枚の画像で学習した結果、多くの歯種で高い精度が得られましたが、萌出途中や重なりのある歯の検出には課題が残りました。今後はデータ数を増やして精度を向上させたいです。現在、この技術を応用したスマートフォンアプリの開発を行っており、将来的にはセルフケアシステムとして実用化を目指していきます。

大会参加に関する感想

今回、IAPD2025に参加させていただき、海外でのポスターセッションにおける英語での発表という意味でも、貴重な経験となりました。会場では、食事中などふとした時間にも各国の先生方と自然に交流が生まれ、様々な意見を交わすことができ、国際学会ならではの雰囲気を感じました。

開催地のケープタウンは、都会的な一面と豊かな自然の両方を兼ね備えた魅力的な街で、滞在中も印象に残る体験ばかりでした。周囲の先生方の温かいサポートのおかげで、初めてのIAPD参加を無事に終えることができました。この経験を糧に研究をさらに深めながら、今後も多くの国際学会に挑戦していきたいと思えます。



ポスター前での発表の様子



ケープタウンを満喫しました



発表内容の説明

低ホスファターゼ症（HPP）は、*ALPL*遺伝子の病的バリエーションにより引き起こされる骨系統疾患です。本研究では軽症型および歯限局型 HPP を引き起こすと考えられているバリエーションをノックインしたマウスを作製し、全身症状と歯科症状をそれぞれ解析しました。

その結果、脛骨の幅径および長径は、軽症型、歯限局型ノックインマウスでは、野生型マウスと比較して有意な差を認めませんでした。一方で、いずれのノックインマウスも野生型と比較して有意に低位な歯槽骨レベルを認め、HPP に特徴的な歯科症状を有することが示されました。

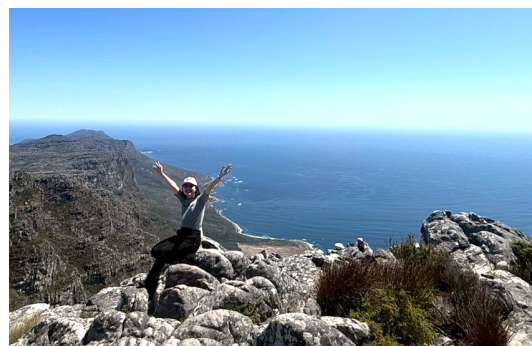
大会参加に関する感想

この度は、IAPD2025 大会に参加する機会をいただいたことに深く感謝いたします。大会会場では、オープニングセレモニーの際に、各国の国旗を手に盛り上がる様子が印象的でした。また、南アフリカには観光名所が多く、その中でもテーブルマウンテンの山頂から眺めたケープ半島の景色に最も感動しました。

今後も国際学会で発表させていただけるよう研究に励むとともに、積極的なディスカッションができるよう語学の勉強により一層精進していきます。



ポスター発表の様子



テーブルマウンテン山頂からの景色

IAPD（南アフリカ）でのポスター発表を終えて

朝日大学歯学部 口腔構造機能発育講座小児歯科学分野
坂東 亮

発表内容の説明

今回、上顎前歯部を外傷し当科に来院した患者について発表しました。患者はHellmanⅢB期で、上顎前歯部にMillerの分類1～2度の動揺を認めたため、矯正用ブラケットを用いた固定を行いました。3か月の固定期間の後、固定に用いた矯正用ブラケットを連用し、矯正力を加え外傷前より生じていた正中離開と唇側傾斜を改善しました。患児には、上顎中切歯の外科的歯胚回転を行った既往がありましたが、歯根の外部吸収や骨性癒着などは見られませんでした。また、外傷による歯髄失活や根尖病変なども見られませんでした。

大会参加に関する感想

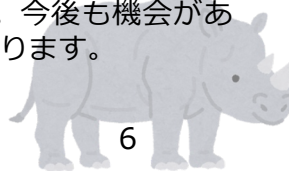
この度は海外で発表させていただく大変貴重な機会をいただき誠にありがとうございました。私の発表は2日目だったのですが、前日予定されていたポスター発表がなかったため、予定通りに自分のポスター発表ができるのか不安を感じながら当日に臨みましたが、海外の学会らしく、いろいろなトラブルはありましたが、自分の症例を世界に発信することができました。また、様々な国の発表を見ることができ、勉強になりました。今後も機会があれば参加させていただきたいと考えております。



発表の様子



ケープペンギン生息地にて





発表内容の説明

乳歯列期の歯並びや咬み合わせの異常は口腔機能の発達や獲得を阻害し、悪影響を及ぼします。本症例では、乳歯列期に反対咬合を有する患児に対し早期に動的咬合誘導を行い、形態を改善した後、口腔機能管理を行いました。その結果、短期間で効率よく口腔機能の改善が期待でき、さらには顎顔面の良好な成長につながることを示唆されました。これらのことから、歯並びや咬み合わせの治療だけでなく、口腔機能の改善を含めた支援が必要であると考えられました。



ポスターの前で齊藤教授と

大会参加に関する感想

国際大会発表奨励事業により、第30回IAPD大会に参加する機会をいただき、誠にありがとうございました。様々な国の言語や文化に触れあいながら人々と交流することで多くの学びを得ることができ、とても刺激的な時間となり、今後のモチベーションへと繋がりました。

このような貴重な経験ができたことを糧に、語学の勉強や、今後の臨床や研究により一層、励んで参りたいと思います。



テーブルマウンテンからの景色

